

学校番号	13	学校名	静岡県立浜松特別支援学校	校長名	園田 一哉
------	----	-----	--------------	-----	-------

【評価】

- A：十分目標を達成することができた。
 B：おおむね目標を達成することができた。
 C：あまり目標を達成することができなかった。
 D：ほとんど目標を達成することができなかった。

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題	担当
ア <授業> 個別最適な学びと協働的な学びを実現する学校					
児童生徒が夢中になれる学校生活の創造	年間計画の作成にあたって、時期ごと、取り組むべきことを明確化・焦点化している。	教員 95%ができた と回答。 学部や学年が時期ごとに取り組むべきことを明確化・焦点化した年間計画を作成、取り組むことができた。	A	その時期最良のテーマを共通理解することで、学習内容が明確化・焦点化され、児童生徒が夢中になって学びを深めることができた。引き続き児童生徒の思考に沿った年間計画案の作成や授業づくりを継続していく。	学部 学年
個別最適な学びの充実	学びのプロセスと個々の成長を想定した支援目標及び個別の指導計画に基づいた指導ができています。	教員 99%ができた と回答。 各分掌から、流れ図、個別の支援計画、個別の指導計画の書き方や要点を周知したことで、基づいた指導ができた。	A	適切な目標設定をし、実態に応じた指導をしようという意識が高い一方、立案した目標や指導が適切か不安を抱える教員もいた。子どもの認知発達段階に応じた合わせた指導の考え方や指導スキルの向上に向け経験豊かな教員等からの助言を受ける機会を設けていく。	教務 特支 自立
協働的な学びの充実	集団で取り組む(友だちと取り組む)良さを生かした授業づくりを実践している。	集団で取り組む良さを生かした授業を実施し、児童生徒同士の関係や学び合いを重視した実践をすることができた。	A	学年・学部間で児童生徒が、集団で取り組むことで、達成感や満足感を感じることができた。学年・学部を超えた集団や校外の人との取り組みも増えてきている。取り組みを継続しつつ、更に多様な集団での授業を展開していく。	学部 学年
自立活動の充実	実態を多面的に捉えた確かな指導目標を導き出し、指導場面を明確にして、効果的な自立活動の指導ができています。	教員 98%ができた と回答。 流れ図の考えを活用して、担当の児童生徒の実態や課題について話し合いを行うことで効果的な実践ができた。	A	年度初めと12月に学部ごとに流れ図の目的や活用について学習会を行った。話し合いを通して、児童生徒の実態と課題を複数の目で考えることができた。今後は、流れ図を活用した話し合いがより深まる工夫と時間の確保に努めたい。	自立

様式第3号

生活単元学習、作業学習の充実	最良のテーマを基に、成就したいことは何かを明確にした授業づくりをしている。授業や單元ごとに個々の学びを共有できている。	それぞれの成果目標に、教員 98%ができたと回答。成就したいことを明確にし、児童生徒個々の学びを共有した。	A	最良のテーマ、成就したいこと、解決したいことを明確にした授業づくりを行い、各学部の児童生徒の目指す姿を見ることができた。継続して取り組んでいくことと学びの共有ができる時間設定を行っていく。	研修 学部 学年 グループ
国語・算数／数学の充実	個々の実態から学習指導要領の領域・段階を捉えた指導計画を立て、授業づくりをしている。	教員 95%ができた と回答 年間指導計画の適宜見直しの推進、国語・算数／数学の授業づくり研修、教科書活用研修を行い、授業づくりに生かした。	A	国語・算数／数学の授業づくり研修、教科書活用研修により、領域・段階を意識した授業改善が進んだ。実態把握や教科書の効果的活用をさらに日常化させ、今後もよりよい授業づくりをしていく。	教務 学習 学部
ICT の活用の促進	児童生徒が ICT に関心をもち、情報活用力が高まる授業づくりをしている。	教員 83%ができた と回答。 児童生徒が ICT に関心をもち、情報活用力が高まる授業づくりができた。	B	学部規模や全体での ICT 研修を通じて AI やタブレット端末を使用することができた。今後は継続して取り組むとともに、学校で使用することとして、人と関わりを持つことができる ICT 活用を意識して取り組んでいく。	情報
図工・美術等、表現活動の充実	感性を磨き、個性を生かした表現活動のできる素材や補助具を用意している。	教員 97%が達成できた と回答。 個々の実態に合わせた教材を用意し、個性を生かした表現活動ができた。	A	外部の作品展に出展したり校内に作品を展示したりすることができた。実態に合った楽器や教材を用意することで、個性を生かした表現活動ができた。図工・美術や音楽の授業づくりに専門的なアドバイスが得られる機会を作るようにしたい。	学習
健康指導の充実	児童生徒が健康を意識して生活できるよう働き掛けている。	教員 84%が達成できた と回答。 児童生徒が健康を意識して生活できるよう働き掛けができた。	B	保健教材や食育教材について保管場所、教材内容を周知したことで、教材を有効に活用しながら保健体育や生活指導を行うことができた。今後は、学習したことが定着するように取り組んでいく。	保健 体育
道徳指導の充実	道徳の指導の観点から押さえるべき内容を確認して、各教科や合わせた指導等を行っている。	道徳の指導の観点、内容を確認し、各教科、合わせた指導等の授業を行うことができた。	A	各学部で道徳教育のミニ学習会を実施した。また年間指導計画や單元カードに道徳の観点を入れたり道徳のあられを共有し、シートに記録したりした。道徳の観点項目の共通理解を行う時間を設けた上で、児童生徒の良い	学習

				あられを教員間で共有する場を引き続き設定する。	
イ <安全・安心> 命と人権を大切に作る学校					
命を守る意識と行動力の向上	児童生徒の命を守るために、指示がなくても取るべき行動を自分で判断することができる。	11月の日時非通知訓練（地震・津波）では、その場で判断し、周りの児童生徒の安全を最優先にした避難誘導ができた。	A	年度開始から間もなく避難経路確認と避難訓練を行い、年間5回の避難訓練を実施した。今後の保護者参加の引き渡し訓練では、職員評価を基に、より実地的な訓練の実施を計画する。	防災
安全・快適な環境づくり	施設を効果的に活用するために、廃棄・片づけ・清掃に自ら取り組んでいる。	教員98%が達成できたと回答。日番が放送をかけたリ、掲示板で「今月のポイント」を伝えたりすることで安全点検の習慣化につながった。	A	物が増え、多忙さが増す後期は清掃・片付けが不十分な箇所が増えた。次年度は分掌毎、学部毎、管理できる仕組み作り（作業時間確保、物品チェック）を行い、年間を通して施設をより効果的に活用できるようにする。	総務
事故防止の強化	けがや事故の予防を心掛け、実態に応じた配慮を行っている。	教員90%が達成できたと回答。けがや事故の予防を心掛け、実態に応じた配慮を行うことができた。	A	月に1回各学部や学年などを中心として事例児、事例生徒を設けた事故を防止するための研修を行った。有効だった予防方法や支援などを学部や学校全体に周知することを引き続き行い、けがや事故の予防を心掛けていく。	保健 体育
人権を守る意識と行動力の向上	学校が児童生徒の居場所（安心する場）となるよう、人権を意識した言動を心掛けている。	教員100%が達成できたと回答。年3回の人権アンケート、学年会で話し合いの場を設け、自身の行動を振り返った。	B	できたという回答が多かった一方で、威圧的な指導、一方的な叱責が見られるという意見もあった。障害特性や発達段階に考慮した指導ができる組織の体制づくりに向け引き続き取り組んでいく。	生徒 指導
相談体制づくり	校内で児童生徒が相談しやすい場ができている。	教員98%が達成できたと回答	A	新たにはまたくサポートルームを開設した。運用には至らなかったため来年度に向け、周知を呼び掛けていく。	生徒 指導
ウ <協働> 家庭、地域、関係機関と協働して支援する学校					
発信力の向上	学校を知ってもらえる伝え方、発信の仕方を工夫している。	教員98%ができたという回答。ホームページ、Instagramを活用し、発信の仕方を工夫することができた。	A	学校ホームページやSNSを利用した積極的な発信を行うことができた。高等部ではクリーンハート班の生徒によるInstagramでの配信活動も行うことができた。今後も学校を知ってもらえる工夫をして継続的に発信活動に取り組んでいく。	学部 情報

様式第3号

<p>江之島地区三校 (浜特・江南中・ 江之高)の協働体 制の強化</p>	<p>三校協働事業が少し ずつ実施できている。</p>	<p>三校生徒会交流会 を2回開催した。</p>	<p>A</p>	<p>親睦を深めるレクリエーシ ョンや、各校の生徒会を盛り 上げる活動に取り組んだ。中 学校のアルミ缶回収や、高校 の分かりやすい教室表示へ の取組に対して感想を伝える 等、各校の生徒会活動に協 力できた。二校の意識も高ま っているので、継続して取り 組む。</p>	<p>管理職 特支 学部</p>
<p>学校応援隊の活 用の推進</p>	<p>地域を知る、地域と触 れ合う、地域の役に立 つ等の活動に取り組 んでいる。</p>	<p>教員 97%ができた と回答。 学年や学部の実態 に合わせて、地域 の学習資源を効果 的に活用した授業 が増えた。</p>	<p>A</p>	<p>新たな地域とのつながりや 既にあるつながりを基に活 動を広げる等により、地域学 習が増えた。高等部の地域清 掃が全校での活動になり、地 域や保護者を巻き込んで実施 した。今後も地域と触れ合 い、地域に貢献する活動に計 画的に取り組んでいく。</p>	<p>特支 学部 学年</p>
<p>進路指導の充実</p>	<p>児童生徒の「夢」を育 み、本人・保護者の「願 い」を大切にした進路 指導をしている。</p>	<p>教員 98%ができた と回答。 関係機関とも連携 を図り保護者への 情報提供、個別相 談、教員の施設見 学等を行った。</p>	<p>A</p>	<p>保護者の願いを大切に した進路支援のために、関係機 関と連携し、情報提供や職員 研修に努めることができた。 「考え、選び続ける進路」を 目標に、小学部から高等部ま での見通しをもって、児童生 徒一人一人の将来の生活を見 据えた支援の充実を図りたい。</p>	<p>進路</p>
<p>センター的機能 の充実</p>	<p>高等学校や小中学校 のニーズに対応する ため、教育相談、研修 支援等への依頼に応 じている。</p>	<p>今年度より連携高 等学校巡回訪問を 実施し、高等学校 での課題が分かっ た。</p>	<p>B</p>	<p>連携高等学校の巡回相談で は、浜松西高、浜松南高、浜 松江之島高に訪問した。高等 学校での課題が分かった。次 年度以降も継続して行って いく。一方で、小中学校から の教育相談は限定的だった。 次年度以降もセンター的機 能の充実化を図っていく。</p>	<p>特支</p>
<p>エ <チーム> 教職員が夢を持って学校づくりに参画し働きがいを感じる学校</p>					
<p>コミュニケーシ ョン力の向上</p>	<p>働きやすいチームと なるよう、相手の立場 に立った伝え方、受け 止め方を心掛けている。</p>	<p>教員 95%ができた と回答。 相手の立場に立っ た伝え方、受け止 め方を意識し、働 きやすいチーム作 りを心掛けた。</p>	<p>A</p>	<p>それぞれの教員がお互いの 仕事の状況や背景を理解し 合い、協力し合う意識をもつ ことができた。自分と相手の 感じ方や考え方の違いを常 に意識し、尊重した関わりを 心掛けることで、働きやすい チーム作りにつながった。一 方で、忙しさと緊張感等から 意図が十分伝わらなかつた り、過敏に感じてしまつたり</p>	<p>学部</p>

様式第3号

				することもあった。より丁寧な言葉選びや伝え方を意識し、相互関係を深めながら安定したチームを継続していく。	
働き方改革の推進	特別な場合は除き、週に複数回、空き時間を確保している。時間外勤務 45H/月以上が連続する職員はいない。	各学部で空き時間を確保したが業務の重なりや偏り等により十分に取れないときがあった。時間外勤務 45H/月以上が連続する職員はいなかった。	B	業務の重なりや偏り等を鑑みながら空き時間を確保していけるよう各部主事、学年主任で年間計画、業務軽減の話し合いと検討を重ねていく。職員の健康やワークライフバランスを維持していけるよう週1回の定時退庁日の継続をしていく。	学部 副校長
指導効果を高める予算の執行	必要物品の計画的な購入、不具合箇所への迅速な対応、不用品等の積極的な廃棄等を行っている。	物品購入、廃棄処理等については計画どおり執行した。施設点検や要望に応じて不具合箇所への対応をした。	A	例年より早目の執行に心掛け、効果的な予算執行ができた。全体的な予算不足や分校分の予算確保に十分ではないところがあった。	事務部
倫理観の向上	不祥事0件	同僚性を高め、不祥事を根絶する明るく風通しの良い職場づくりに努めた。一方で、高い倫理観を求められる教職員として更なる倫理観の向上が必要である。	B	学年でグループワークを設定し、同僚性を高め、風通しの良い職場風土づくりを行った。「私の人権宣言」「安全運転宣言」を記入し職員玄関前に掲示し意識を高め合うことができた。同じ職場で働く仲間を思いやり、健やかな心身を保つとともに、高い倫理観を持つ集団としての風土づくりを行っていく。	管理職